

2015年7月の金融経済概況のポイント

—— 主に6月の景気指標やヒアリングをもとに判断しました

■景気の基調判断

- 7月も、景気について「基調的には持ち直している」との判断を据え置きました。観光は引続き好調ですが、公共投資が減少したほか、個人消費は依然盛り上がりや足を欠く動きが続くなど、景気全体としては前月までと大きな変化はありませんでした。

—— 昨年11月にトーンダウン（下方修正）して以降、「基調的には持ち直している」の判断を据え置いています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、4、5月に前年実績を小幅ながら上回った後、6月は前年実績を下回りました。前年は4月以降、消費税率引き上げ後の買い控えがあつて消費が落ち込んでいたことを考慮すると、やや冴えない数字と言えます。参考として、前々年比をみると、4月▲3.1% → 5月▲1.1% → 6月▲4.9%となっています。
- 6月が芳しくなかった要因の一つとして、気温が低かったことが挙げられると思います。旭川市の今年6月の平均気温は16.0度で、昨年の19.2度、一昨年の18.1度に比べて2～3度低いものでした。こうしたことから、6月中は夏物衣料の売り上げが振るわなかったという声が聞かれています。
- 一方、道北地域の中で旭川市内とそれ以外の地域とを比べた場合、旭川市内の方が不冴えとなっている（6月前年比 旭川市内▲3.5% それ以外の地域▲1.8%）傾向は引き続きみられています。また、札幌を中心とする道内全体の動きに比べても、旭川の動きは弱い状態が続いているように思われます。小売店の間の競争が厳しいこと、所得面からの消費拡大効果が札幌等と比べて今一つであることが窺われます。こうしたことが小売企業の景況感にも影響しているものと思われる。

■観光の動向

- 6月は数字だけをみると、今一つパツとしないデータもありますが、中国、韓国、台湾をはじめとする外国人観光客を含め、多くの観光客が道北地域を訪れ、航空機やホテルの高い稼働率が続いている状況は変わりありません。夏場の観光シーズンの予約も好調とのことです。今後とも観光が道北景気の牽引役となっていくものと見込まれます。

■公共投資の動向

- 前年度の補正予算と合わせた今年度の予算規模が縮小していることから、6月の公共投資は、前年比減少となりました。業界内では、夏場から秋以降にかけて厳しい見通しが聞かれています。

■今後のポイント

- 道北では、景気の基調判断の据え置きが続いていますが、この背景には、企業、家計ともに景気の先行き不透明感がなお根強いことが影響しているとみえています。現状、観光については明るい話題が多いのですが、公共投資の先行き見通しが厳しいほか、個人消費についても、力強く回復するには至っていません。
- この点、7月1日に発表した6月短観では、業況判断が「+13」と3月短観（▲4）に比べて改善したほか、3月短観での予測（▲10）に比べても上振れる結果でした。各企業の先行きに対する見方は引き続き慎重なのですが、幾分明るさもみえる結果ではなかったかと思われます。
- 今後、道北地域の景気全体が着実に回復していくためには、公共投資になかなか期待が出来ない以上、ポイントとなるのはやはり個人消費の動向ではないかと思われます。特に、上述した各要因のうち「所得面からの消費拡大効果」が目に見える形で顕現してくるかどうかはキーとなるのではないのでしょうか。
- なお、天候に左右されがちな個人消費ですが、幸い7月入り後は、好天が続いていることやセールの効果もあって、足元は比較的良好に推移しているようです。

以 上